

製品名: Rb ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab00081**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,IP
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	リン酸緩衝生理食塩水中のウサギ IgG、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%アジ化ナトリウムおよび50%グリセロール。
精製	アフィニティークロマトグラフィー

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IHC 1:50-1:100,ICC/IF 1:50-1:200,IP 1:20-1:50
分子量	Calculated MW: 106 kDa; Observed MW: 106 kDa

抗原情報

遺伝子名	RB1
別名	RB1; Retinoblastoma-associated protein; p105-Rb; pRb; Rb; pp110
遺伝子 ID	5925
SwissProt ID	P06400
免疫原	標的タンパク質に対応する合成ペプチド

背景

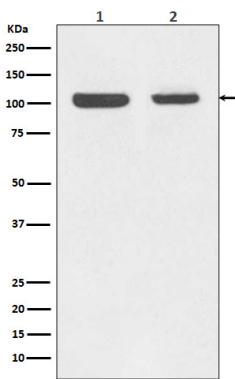
CDKによる細胞周期依存性のリン酸化は、Rb 標的への結合を阻害し、細胞周期の進行を可能にします。Rb の不活性化とそれに続く

細胞周期の進行には、サイクリン D-CDK4/6 による最初のリン酸化と、それに続くサイクリン E-CDK2 によるリン酸化が必要であると考えられます。in vitro では、様々な CDK/サイクリン複合体の特異性が観察されており、in vivo ではサイクリン D1 が Ser780 のリン酸化に必須です。

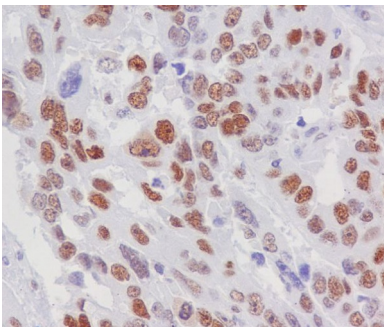
研究分野

細胞生物学

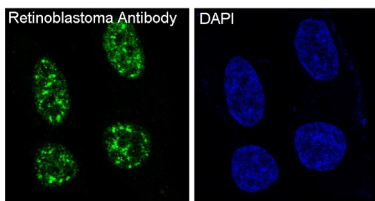
画像データ



(1) Jurkat 溶解物、(2) Rb 抗体を用いた MCF-7 溶解物中の網膜芽細胞腫のウエスタンブロット分析。



網膜芽細胞腫抗体を使用したパラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学分析。抗原賦活化には高圧高温クエン酸ナトリウム pH 6.0 を使用しました。



網膜芽細胞腫抗体を用いた SH-SY5Y の Rb の免疫蛍光分析。